

要 約 (アオリイカ)

I 産卵生態

- (1) アオリイカの産卵期は、2月下旬～10月下旬と推定された。(図-1、表-2)
- (2) 生物学的最小型は季節により変化し、雌は春期には背套長2.15cm、夏期には1.10cmである。秋期産卵群の背套長は春期産卵群に類似するものと思われる。(図-2～4)
- (3) 産卵場は知念の南側海域、泡瀬～勝連半島の海域、金武湾の天願川沿岸海域である。その他波静かで潮流の弱い水深10m以浅の海域などの海域でも産卵する。(図-6)
- (4) 産卵基質は平らなサンゴ礁の下面、海藻、イソバナ等である。ホンダワラ属の藻類は好適な産卵基質の一つである。
- (5) 1個体の産卵数は、卵のう数で51～581、推定産卵数は153～1723個であった。(表-2)

II 発育段階別分布生態

- (1) 幼稚子の分布域は産卵場海域とはほぼ類似するものとみられる。(図-7)
- (2) 藻場の分布とアオリイカの分布とは明らかな関連性がみられる。
- (3) 発育段階別及び季節的な浅深移動はみられない。昼間と夜間の浅深移動はかなり明確である。
- (4) アオリイカの成長は、孵化後1ヶ月目に30mm、2ヶ月目に55mm、3ヶ月目に75mmであった。1年間で最大40cm前後、体重2.5kg前後と推定される。

III 発育段階別食物環

- (1) 背套長6.3mm～31.5mmの範囲で餌料生物は魚類主体であり、体長による餌料生物相の変化及び季節的な変化はみられない。魚類以外には、長尾類、頭足類、貝類、シヤコ類が僅かに出現した。

IV 漁業生産

- (1) 沖縄における総漁獲量は129～190トンにあって近年は減少又は、横ばい状態である。漁獲量では下位に位置するが、漁獲金額ではマチ類、タイ類、タカサゴ類に次いで上位にランクされる。また単一種としては、1、2位に位置するものと思われる。
- (2) 海域別漁獲量をみると、中城湾、金武湾で31.8%で最も多く、次いで県北部20.2%、県南部18.6%、八重山17.1%、宮古10.1%、県中部西側海域2.3%となっている。中城湾での漁獲量は全沖縄のアオリイカ漁獲量の約4分の1以上を占める。
- (3) 漁業種類別にみると、勝連では追込網41～50%、イカ曳34%、建于10～14%、マス網、その他となっている。糸満では90%以上がイカ曳によるものである。